

三矢の訓



令和3年1月7日
第9号
岡山市立伊島小学校

電話 (086) 252-2251
FAX (086) 252-5657
URL <http://www.city-okayama.ed.jp/~ishimas/>



あけまして
おめでとうございます
本年もよろしく願い申し上げます

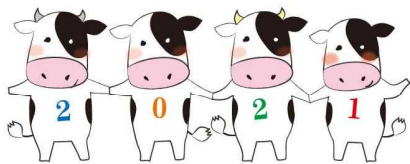
新しい年、2021年が始まりました。保護者の皆様、地域の皆様、新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、本校教育に多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。伊島の子どもたちが、安心して、伸び伸びと、また楽しく充実した学校生活を送ることができておりますのは、保護者の皆様、地域の皆様のお力添えのおかげと感謝の気持ちでいっぱいでございます。

学校では、3学期がスタートしました。1月は行く、2月は逃げる、3月は去ると言われるように、3学期はあっという間に過ぎ去っていきます。1年生から5年生は、3月25日が修了式です。6年生は、3月23日が卒業式ですから、卒業まで2ヶ月少々しかありません。

短い3学期ではありますが、今まで通り、一日一日を大切に、しっかりと地に足がついた教育活動を進めてまいります。伊島の子どもたちがもっている素晴らしい力をさらに伸ばしていくことができるように、またこれまで以上に子どもたちの笑顔があふれる元気な学校となりますように、教職員一同、尽力致しますので、締めくくりの3学期をどうぞよろしくお願い申し上げます。

「丑年のお話」



丑年の動物「牛」は、農耕作業や物資運搬の労働力として、古くから人間の生活に欠かせない身近な動物でした。この牛が干支の動物になったのにはどんな意味があるのでしょうか。今回は丑年の意味について調べてみました。

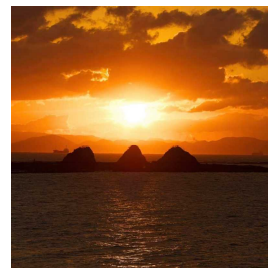
①十二支に動物が使われているのはなぜ？

そもそも、なぜ十二支に動物が使われているのかご存知でしょうか。

十二支が生まれたのは中国の「殷(いん)」の時代。もともと日付や時刻、方角を表すために使われていましたが、干支の漢字(子丑寅…)は特に意味を持たない記号のようなもので一般の民衆には覚えにくかったそうです。

そこで、人々が覚えやすいようにと後漢の時代に中国の王充(おういつ)という人物が十二支に身近な動物を割り当てて文献を書きました。これが十二支に動物が使われた始まりと言われています。干支の漢字(子丑寅…)と動物の漢字(鼠牛虎…)がかなり違うのは後から割り振られたことが理由です。

ちなみに十二支は日本以外の国にもあります。動物の種類や順番はほぼ同じですが、タイやベトナムは卯の兎の代わりに猫が入っていたり、中国では亥(イノシシ)の代わりに豚が入っていたりと、国によって割り当てられている動物に微妙に違いがあるようです。



②丑年の意味や由来とは？

牛は昔から食料としてだけでなく、農作業や物を運ぶときの労働力として、人間の生活に欠かせない動物でした。勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、身近にいる縁起の良い動物として十二支に加えられたようです。また「紐」という漢字に「丑」の字が使われおり、「結ぶ」や「つかむ」などの意味を込めたとも考えられています。

③牛は神様？

学問の神様の菅原道真をまつる天満宮には、丑（牛）の像が置かれています。なぜ牛なのか、不思議ですよ。これは「菅原道真が丑年だった」「道真が暗殺されそうになったところを飼い牛が救った」「道真の遺体を運んでいるときに牛が座り込んで動かなくなったのでそこに埋葬した（その場所が大宰府天満宮）」など、牛と道真にまつわる様々ないわれから。また黙々と働く牛の様子は道真の教えにも通ずるものがあり、牛を神の使いとして祀っているそうです。大宰府天満宮や京都の北野天神にはいくつか牛の像がありますが、そのどの牛も座り込んだ姿をしています。



また、仏教が生まれたインドでは牛は神様として大切にされています。牛には神に近い尊いイメージがあるようです。神に近いとされる牛が干支ということならば、やはり、縁起の良い年になることを期待します。

④丑年が2番目なのはなぜ？

丑年の順番がなぜ2番目なのかについては、十二支についてよく知られている物語があります。

昔、神様が元旦に挨拶に来た12番目までの動物を順番に、一年間その年のリーダーにしようというお触れを出します。

牛は自分が歩くのが遅いことを知っていたので、誰よりも早く前の晩のまだ暗いうちに出発するのですが、牛の背中に乗ってやってきたねずみが神様の御殿の門が開いたとたんに跳び降り1番に。残念ながら牛は2番となり、干支の順番は2番目になりました。

動物の性格を上手く捉えた面白い物語ですが、この物語は後から作られたものとも言われていますので、順番には動物の優劣や特別な意味はないと考えたほうがよいようです。ちなみに他の国にもこの干支の物語は伝わっており、「ねずみが牛の背中に乗って行った」という話は、ほとんどの国で共通しているようです。

⑤丑年はどんな年になる？

十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みの遅い丑（牛）の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われています。

十二支の2番目の干支であることから、子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされ、まだ結果を求める時期ではなく、結果につながる道をこつこつと作っていく基礎を積み上げていく時期とされます。

丑（牛）の年は、黙々と目の前の自分の仕事をこなすことが将来の成功につながる、と考えるとよいようです。（引用元：「おたより本舗」運営：株式会社アーツ）



丑年を迎えるにあたり、「丑」の文字の意味や、牛があてられた理由など、調べてみると面白いことや新しい情報が分かりました。

丑（牛）の年は、次の成長や将来の成功につながる年ですので、皆様にとっても2021年が良い年になるようにお祈りしています。

